

本荘小学校4・5年生

「三の井手は白川とつながっているか？」



大井手を調べる!!

小学生・大学生の取り組み

「本荘校区を流れる三の井手は、いったいどこから流れてくるのだろう。同じ校区を流れる白川とつながっているのか？」

子供の素朴な疑問から始まった学習。学校近くの三の井手から上流に向かって探検するうちにいくつかの発見がありました。

一回目は、学校から三の井手取り入れ口まで歩き、二回目は大井手の取り入れ口を確認し、井手に沿って歩きながら観察しました。

後日、地域の方から白川や三の井手への想いや願いも聞いたそうです。



井手の口
井手の水が白川に流れ込んでいる！三の井手はここから白川の水を取り入れていると思ったけれど違ったね。



大井手から三の井手に水が引かれる所。



渡鹿堰と大井手取り入れ口。
白川の水はこの堰から大井手に引いているんだ！でもゴミが多いなあ。



三の井手はどこへ流れていくのだろう？
これからの勉強だね！！



熊本大学工学部(社会基盤設計演習)

「大井手を活かしたまちづくり」

この演習は、白川左岸新屋敷周辺の井手大井手を対象に、土木遺産を活かした地域づくりに取り組みまちづくりに取り組むです。

熊本に築造されている多くの井手は、歴史ある水辺でありながら市民の生活に活用されている。満足に活用されていない所が多いことからこの演習が組まれました。

必要な文献資料を集めたり、ヒヤリング調査をしたり、まちづくりの課題を解決する提案に基いて、空間に関する提



をするそうです。今回は、地域の専門家の方の講演と中間報告がわくわくランドでありました。

秋にはこの学習成果が発表されるでしょう。

白川わくわくランド
ニュース

第29号

発行
●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX (096) 346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

河口から数えて25番目の橋。市道上龍田・上南部第一号線に架かる。橋長は81,65m、幅は12,80mで1997年7月竣工の新しい橋である。それ以前は木橋で、昭和40年竣工、橋長が69,92m、幅が4,35mであった。

白川の橋(25) 武蔵橋



写真1
(木橋の武蔵橋)



写真2
(木橋と新しい武蔵橋)

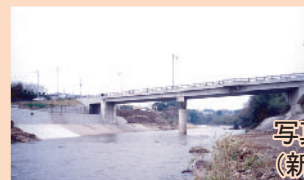


写真3
(新しい武蔵橋)

白川わくわくランド寺子屋

「立野と南郷谷の自然を訪ねる」

～火山・カルデラ・滝ダム・草原～

阿蘇の魅力と脅威



期 日 平成一九年五月二十六日 土曜日

八時四十五分～十六時半

講 師 熊本地学会員 村上能治 先生

参加者 三十四名

前日の雨がうそのように晴れ渡った五月二十六日、立野と南郷谷を訪ねる寺子屋を実施しました。今回は、地質を中心とした学習です。

立野のダム建設予定地では、講師の村上先生と国土交通省の立野ダム工事事務所の吉田さんから、立野周辺の地質とダム建設の目的について説明をしていただきました。ダム建設については基礎調査のために掘られた横坑内も見学しました。村上先生からは、地層についてカルデラ形成以前の歴史から説明があり、白川の左岸と右岸の地層はその形成過程で違うことを知りました。一見すると、同じに見える谷ですが、歴史的に大きな時代の差があることを聞いて驚きました。

合流地点では、過去3回できたカルデラ湖の話から、阿蘇谷と南郷谷の違いを聞き、自然の形成が、人々の生活に大きく影響していることを知りました。

午後は、今、報道で話題になっている吉岡の噴気孔を見学しました。安全地帯からの見学でしたが、真っ白にもくもくと立ち登る噴気と当たりに漂う特有の臭いに、生きている阿蘇を実感しました。

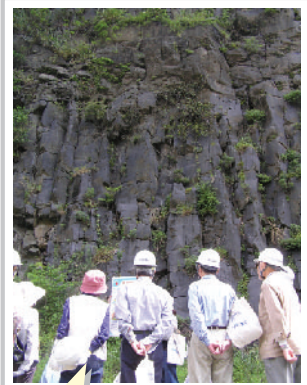
鮎帰りの滝では、滝に加え、左岸側の原生林の緑と右岸側の田植えがすんだばかりの棚田の風景が印象的でした。



ダム建設予定地で村上先生の話聞く。左岸は、先阿蘇火山岩、右岸は立野熔岩・赤瀬熔岩などから成るようだ。



地質調査のために掘られた右岸側の一つの横坑内を見学。北に800m程掘られていて、国道57号の下まで及ぶという。天井には柱状節理の横断面がきれいに見ることができた。



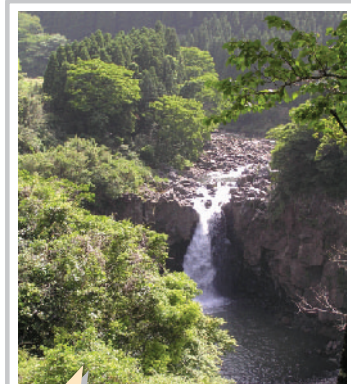
立野の白川右岸にはみごとに柱状節理がみられる。



「吉岡地区」の噴気の様子を見ながら阿蘇火山活動の説明を聞く。草千里の地下約6kmにあるマグマ溜まりから西に伸びた位置にあたり、近くには温泉も湧き出ている。



阿蘇長陽大橋を下から眺める。立野ダム建設のために造られた橋。すぐ左手が白川と黒川の合流地点。阿蘇谷と南郷谷の標高差は滝で調節されて二つの流れが合流する。



今日の寺子屋の締めくくりは、鮎帰りの滝見学だった。阿蘇谷の黒川にある数鹿流ヶ滝と対比してあげられる。数鹿流ヶ滝より落差は小さいが、この周辺を形成する鮎帰り熔岩は、カルデラ形成後では一番古い熔岩だそうである。

寺子屋 わくわく講座

「山と花と水と」

〜森を見続けて半世紀〜



本年度のわくわく講座は、「自然の力と人間」水がつなぐ森川・海と人との関わり」と言うテーマで開催します。その第一回目が今回の講座です。

中学時代から山に魅せられた講師は、半世紀にわたって山を見続けてこられました。森に息づく生きものたちの営みを、その体験に基づいて話され、参加者は、息をのむ思いで聞きました。



オトシブミが作った葉っぱのゆりかごが参加者に配られると、それは参加者の手の中でころころところがされ、感嘆の声ががりました。

ブナの森の素晴らしさ、カッコウの巣立ちの様子歩く(?)イワナ、イワナの眠り場、ミノムシとカラスの生きる知恵、ベッコウサンショウウオ、巣にいるクモの姿、フクジュソウ、オキナグサ等々、生きものの姿が次々と語られました。そして、山で出会った水の話。水だけでなく国土を肥沃にするはその森(雑木林)の話。

数え切れないほどの生きものが紹介されました。その話から、森の豊かさ・生きもののたくましさを感じました。多様な生きものが生き抜くことができる自然を守り育てることが人間に与えられた使命であり、人間が自然に生かされていることだと思いました。

先生の資料の一部を紹介します。「脊梁の山はブナの宝庫だ。森の中を流れ落ちる水は「森の香り」を届ける。冬のブナ林は寂しいが水は脈々と流れベッコウサンシヨウウオが生息する。ブナの原生林は100年2000年を周期として育てなければならない……」



そこに立つだけで心安らぐブナの大樹。

この大樹自身、水や森の養分をすいあげて命をつなぐだけでなく、周りの多くの生きものの命を支える。



フクジュソウ

太陽に向かってパラボラアンテナのように大きく開いた黄色の花。太陽のエネルギーたくさん受ける知恵。



オトシブミ

直径7ミリ、長さ2センチほどの大きさ。葉脈を食いきてくるくと巻いた中に次の世代の命を残すその巧みに感動。

日時 平成十九年六月二十九日(土)
講師 日本山岳会 自然保護指導員
元東海大学第二高等学校教諭
廣永峻一 先生
場所 白川わくわくランド
参加者 三十九名

気を付けよう！

堰の近くの川遊び

白川にも、上流から下流まで堰などの河川横断物が数多くあります。その構造物は低い物でもその下流には反転流が起っています。ここに一度はまってしまうと、ぬけ出られなくなることもあります。近づかないことが大切！！



川の豆知識

13

一級河川・二級河川

河川は公共に利用されるものですから、その管理は災害を防止し、公共の安全を保持するよう適正に行われなければなりません。そこで河川は、河川法によって管理されています。

具体的には、一級河川については建設大臣、二級河川については都道府県知事、準用河川については市町村長が管理するものと定められています。

川は、何本かの支線が本線に集まり一本になりますが、集まる全部の川を水系といいます。一級水系に含まれる川が一級河川、二級水系に含まれる川が二級河川です。白川は一級河川ですが、大臣管理区間と県知事管理区間などがあります。川沿いの看板を見ると「一級河川 白川 国土交通省」とか「一級河川 白川水系 黒川 熊本県」とか書いてあります。